

愛知県矢作川におけるチャンネルキャットフィッシュの採集状況

吉田誠（国立環境研究所琵琶湖分室）

近年、国内の複数の水系において外来魚チャンネルキャットフィッシュ *Ictalurus punctatus* の分布拡大が報告されている。愛知県内の矢作川水系では、2005年に本種の侵入が確認されて以降、地元の試験研究機関および市民団体による10年間の継続的な採集調査・駆除活動を通じて、中流部に位置する阿摺ダム・越戸ダムの周辺で多数の個体が捕獲されてきた。本種の捕獲個体数は2010年をピークに減少し、上記活動の最終年となった2014年に捕獲された2個体が水系内で最後の記録となっている。しかし、同年以降、水系内で本種を対象とした調査は行われておらず、現在の生息状況は不明である。そこで本研究では、本種の生息状況を確認するため、過去に本種が多数捕獲された阿摺ダム・越戸ダムにおいて、当時と同一の手法を用いて採集調査をおこなった。

採集調査は、2021年6月に阿摺・越戸の両ダムで各1回、10月に越戸ダムで1回、11月に阿摺ダムで1回の計4回おこなった。採集にあたっては、両ダムを管理する中部電力越戸水力制御所の許可を得て、ダムの直下流の淵に2本の延縄仕掛け（針数：15-23本）を一晩設置し、翌朝に回収した。延縄の幹糸と枝糸の接続部にはそれぞれ浮力体を取りつけ、水面下30-40cmに餌が保たれるようにした。延縄の餌には活魚（オ

イカワ *Opsariichthys platypus*, カワムツ *Candidia temminckii*, カマツカ *Pseudogobio esocinus* 等) を用いた。採集した魚類は体長および体重を計測し、全て冷凍保管した。

実施した 4 回の調査で計 8 個体のチャンネルキャットフィッシュが捕獲された。その内訳は、阿摺ダムで 3 個体(全長: 28.0–33.7cm), 越戸ダムで 5 個体(全長: 53.5–73.0cm) であり、両水域を合計した捕獲個体数 (8 個体) は、2010 年 (12 個体) および 2012 年 (9 個体) に次いで過去 3 番目に多かった。延縄 1 針あたりの捕獲個体数 (CPUE) は阿摺ダムで 0.05, 越戸ダムで 0.07 であり、両水域を合算した CPUE (0.06) は 2009 年 (0.10) に次いで 2 番目に大きかった。捕獲個体の体長から推定した年齢は、阿摺ダムで捕獲した 3 個体が 2–5 歳, 越戸ダムで捕獲した 5 個体が 7 歳以上であり, 前者は 2016 年以降, 後者は 2014 年以前に生まれた個体と考えられた。以上の結果から、今回調査した両ダム周辺の水域では、継続調査の終了した 2014 年時点で生き残っていた個体の繁殖により、その後本種の個体数が回復し、現在は比較的高い個体数密度を維持していると推察された。